

なつかしい未来

text by Shinji Ishii
文いししんじ

全国を巡回中の「インボツシブル・アーキテクチャー」展をみてきた。歴史上の建築家たちが、夢み、構想し、実現できなかった／させなかった建築物の数々が、模型や図面、映像のかたちで公開されている。

なかでもリーダー格というか、入口すぐの巨大スクリーンに映しだされた、有名な「タトリン・タワー」の映像は圧巻だった。正式名称「第三インターナショナル記念塔」。1919年、ウラジーミル・タトリンが設計。エッフェル塔より高い、二本のらせん塔が斜めに組み合わさり、鉄枠の内には、立方体、ピラミッド、球形、半球、四つの構造体が吊りさがっている。立方体は一年に一回、ピラミッドは月一、球は毎日、半球は一時間に一度回転する。まったく途方もない。かつこよさでいったら建築史上ナンバーワンかもしれない。

覚めたみたいだった。「インボツシブル・アーキテクチャー」展には、タトリン・タワーだけでなく、さまざまなソ連の「アンビルト」な建築が展示されていた。どれも強烈に知的で、斬新で、途方もない夢の気配を全体にまとうている。ひさびさに手塚治虫の未来都市を思いだした。過去からみわたした未来、いつてみれば「なつかしい未来」がいま目の前にある。

1917年にロシア革命が起き、それから国じゅうが未来を夢みた。映画ではエイゼンシュテインが世界最先端を走り、文学ではマヤコフスキーがこの世で誰もきいたことのない詩をうたった。芸術面で花開いたロシア・アヴァンギャルドが、建築の方面へも浸透していった。その象徴的記念碑が、タトリン・タワーにほかならなかった。

それが1930年以降、スターリンによってアヴァンギャルドが禁止され、反抗するものはみなシベリア送りか銃殺刑になる。エリートにしかわからない芸術・文化は、国家体制の維持には害悪でしかない。農民にもわかる芸術を、というのがスローガンとなった。ひとつずつが超オリジ

スプートニク、ソユーズ、ガガーリン、テレシコワ。あの頃、地球の未来といえば、ソ連、ソビエト連邦が拓いていくものと、僕はそう感じていた。ソ連はかしこく、アメリカは愚かで田舎くさい、そんなイメージがあった。だから沖縄を占領し、原爆を落とす、ベトナムに毒の煙をまく。ソ連はそんなことしない。理想、夢を追いかける国。ふりかえってみれば当時のソ連は、ほくたち子ども目の目に、架空、フィクション国家、みたいに映っていたかもしれない。手塚治虫の描く未来都市は、どことなくソ連ぽかった。思えば「ソ連」という名称も、なんだか国っぽくない。未来から、流線型の乗りものでやってきた、銀色スーツの秘密集団みたいだ。

小学校高学年くらいで「おかしいな」と気づく。ソ連って、クルマつくってないのナルなアヴァンギャルド建築は、どの場所に建っても同じ、金太郎飴みたいな団地アパートにとつてかわられた。

建築家の青木淳さんが、ニューヨークの摩天楼は、あれはソ連なんですよ、と教えてくださいました。1929年の大恐慌のあと、どこかしら社会主義風なニューディール政策によって建てられた、夢の摩天楼。パットマンたちが暗躍する「ゴッサム・シティ」。クライスラービル、エンパイア・ステートビル、フラットアイアンビル、ロックフェラーセンター。マンハッタン全体は、じつは、ヨーロッパ人からみたアルプスの異様さ、不調和さをもとに計画されてい

か。いわんやスーパーカーをや。かつこい映画はアメリカのばかり。リーバイスもナイキもヤンキースも、みんなアメリカ産。ソ連のものってなんだ。マトリョーシカ人形か？

10歳のときベレンコ事件があった。ミグ25に乗った中尉が亡命して日本へ飛んできた。飛行機はかつこよかったけれど、事件全体がスマートでなく、ネッシー騒動みたいな陳腐さが鼻についた。現実のソ連ってあんまりうまくいってないんじゃないか、と、僕たちも当時、じつは気がついていていたと思う。

未来どころか、現在にも遅れてる。みんなウォッカで酔っぱらって、現実から目を背ける。そのうちベレストロイカがはじまり、ベルリンの壁が壊れ、ソ連も、あっさり消えた。まるで霧か、長すぎる夢が

るといふ。ロシア革命で生まれたアヴァンギャルドの夢を、ヨーロッパから新大陸にやってきた移民たちが、あのけして広くない島に、現実の風景として結実させた、と、そんな風に考えられなくもないわけだ。

それを踏まえてふりかえってみても、タトリン・タワーの構想はすさまじい。うまれた当初、ロシア革命なるムーブメントが、人類史上どれほど勢いをもっていたか、しみこむように伝わってきて胸が熱くなる。「なつかしい未来」とは、20世紀における現代都市文明の、青春時代のことなのかもしれない。



ソビエト
社会主義共和国連邦
(1922年-1991年)

面積: 22,402,200km²
人口: 293,047,571人 (1991年)
首都: モスクワ
公用語: なし



Profile
1966年大阪生まれ。京都在住。
著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツエ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を教え！』（町田康共著）『熊にみえて熊じゃない』『遠い足の話』、絵本に『赤ずきん』（ほしよりこ絵）など多数。